

(2) JR

札幌市内の鉄道は、JR 北海道が運行しており、JR 函館線(27.5km)、JR 千歳線(8.0km)、JR 札沼線 (15.1km) の 3 線計 50.6km、26 駅となっている。

踏切での渋滞解消や事故の防止、市街地分断の解消などを旨し、札幌高架、新川高架、札沼線高架などの鉄道高架の取り組みを進めるとともに、輸送力の増強を目指して JR 札沼線の複線化を行った。

これにより、国鉄時代には、都市間輸送としての役割が大きく、昭和 58 年度には市内 13 駅で利用者数 1 日当たり 8 万 1 千人であったが、その後、輸送力の増強や中間駅の設置により都市内輸送としての役割が大きくなり、平成 20 年度には市内 26 駅で 1 日当たり 19 万 4 千人の利用者数となった。

市内の平均駅間距離は約 2km で、地下鉄の 2 倍となっており、長距離移動の速達性に優れていることや、快速列車の導入により需要が特に多い地域へのさらなる速達性が確保されるなどの特徴がある。

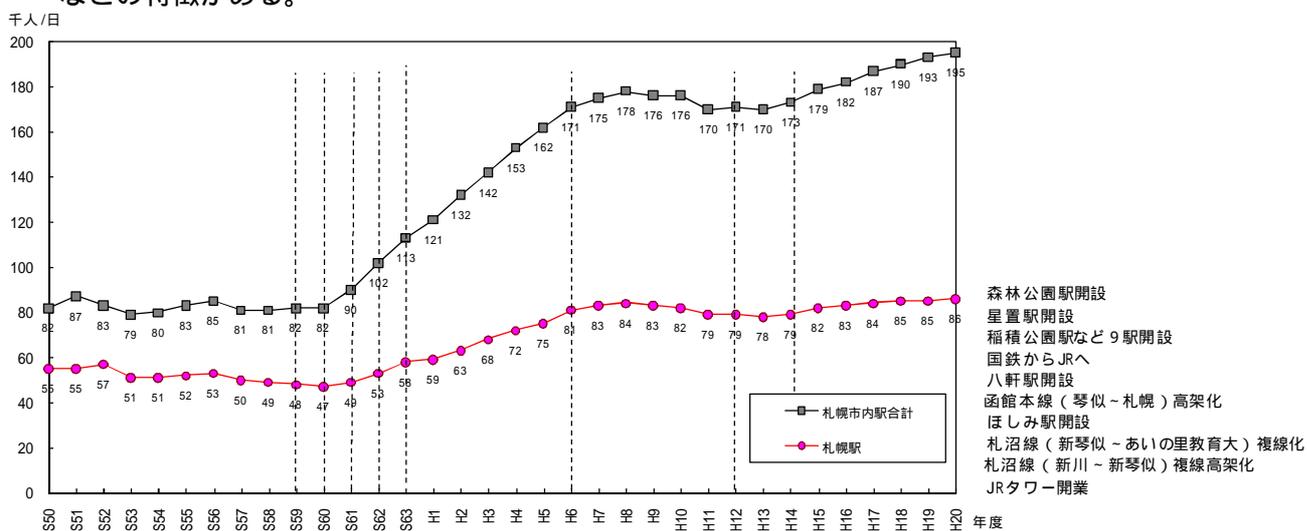


図 3-5 JR の利用者数推移(1 日平均の乗車人員)

資料:札幌の都市交通データブック

現在は、1 日当たり 5 千人以上の利用がある駅舎のバリアフリー化が進められるとともに、これまで非電化区間であった JR 札沼線の電化で、さらなる輸送力の増強が進められており、駅が「歩いて暮せる街の中心」となるよう、今後はまちづくりと連携しながら交通機能の充実を図ることが重要である。



写真 3-4 札沼線高架(JR 新琴似駅)



写真 3-5 ホーム上のエレベーター(JR 厚別駅)

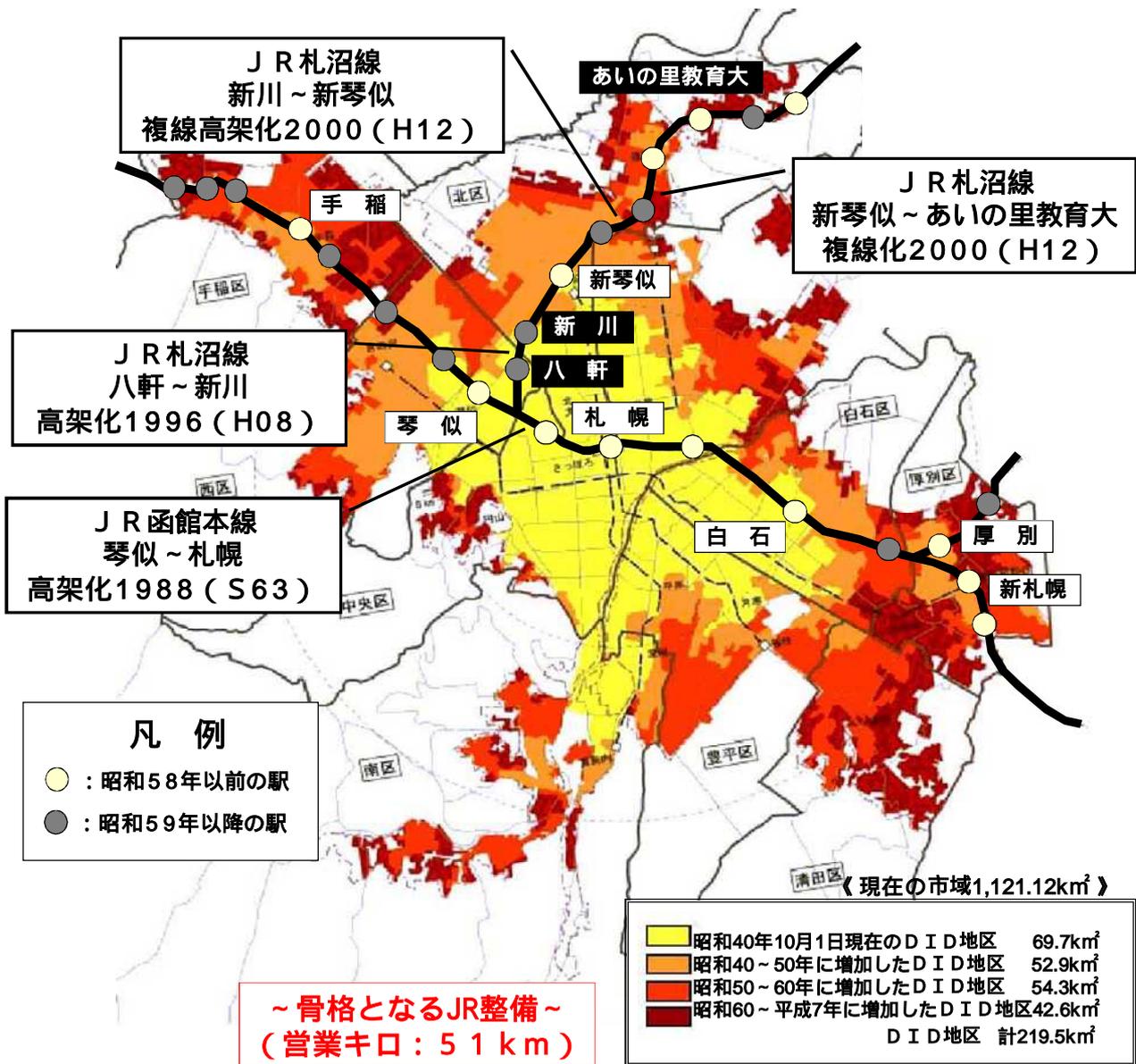


図3-6 DID地区の拡大とJR駅設置状況

J R

< 想定される事業・施策 イメージ例 >

- ・ J R 白石駅橋上化、駅前広場整備（事業中）
- ・ J R 苗穂駅移転、自由通路・駅前広場整備、アクセス道路整備
- ・ J R 篠路駅周辺の駅前広場整備、アクセス道路整備

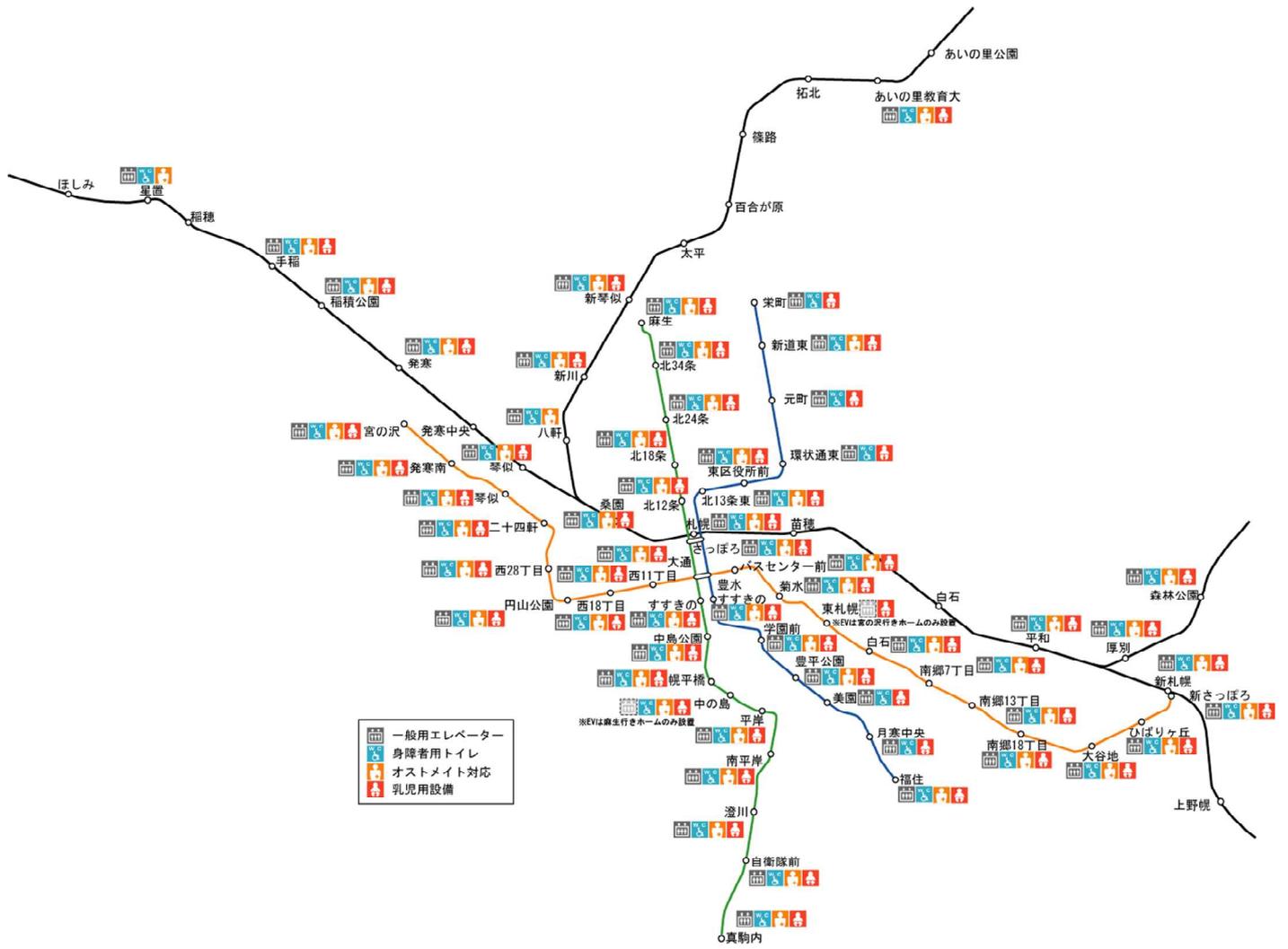


図3-7 地下鉄・JR駅におけるバリアフリー化状況
(平成22年3月現在)